

## II 不適切な放送に至った経緯

東海テレビが公表したところによれば、不適切なテロップは、概略、以下のような経緯で放送されるに至っている。

### ①テロップ制作～放送直前

テロップ制作担当の外部スタッフは、視聴者プレゼント当選者発表用のテロップを作るよう依頼され、「岩手県産ひとめぼれ10kg当選者名」というタイトルの下に仮の氏名として「怪しいお米 セシウムさん」等と記載したテロップを作成した。本人は「思いつき」「半分ふざけ」等、とっさの悪ふざけだった旨を語っている。

新人のタイムキーパー（TK）とアシスタントプロデューサー（AP）がこの不適切な内容のテロップに気がつき、テロップ制作者に修正を求めた。APは放送直前にも同様の依頼をしたが、テロップ制作者は別の仕事に追われるなどしていたため、修正依頼を受けた「記憶がない」という。問題のテロップはテロップ送出機に放置されたままだった。

この一連の経過について、東海テレビ社員である番組責任者らは報告を受けていなかったため、問題の存在を知らなかった。

### ②放送本番～異変

本件放送は生放送だが、後半30分は通販番組「別冊！ぴーかん」となっており、そのなかで約9分間のVTRが放送される構成だった。このVTR放送中、スタジオのフロアディレクターは副調整室にいたTKに対し、リハーサルのために、当選者発表用のテロップをスタジオに設置してある大型モニターに映し出すよう指示した。

TKはまだ仕事に習熟していなかったため、誤って放送中のテロップのチェンジボタンを押した。そのとたん、放送画面から通販番組のVTRや番組のロゴマークが消え、画面全体が問題のテロップに切り替わった。TKは、リハーサル中なので、「オンエアには乗らない」と思っていたという。

### ③異変継続～パニック

このときスタジオと副調整室には多数のスタッフがいた。しかし、次の段取りの打ち合せ等もあって、ほとんどの制作スタッフは放送画面を見ていなかった。

副調整室にいたスタッフらが異変に気づいたのは、画面が不適切なテロップに切り替わってから約10秒後だった。しかし、一種のパニック状態になったため、スイッチャーが不適切なテロップの送出を止めるまでさらに約13秒を要した。